

は じ め に

本書は、平成１２年に実施した「第９回大都市交通センサス」の調査結果について、様々な視点から分析を行った「平成１４年度大都市交通センサス調査」の成果をとりまとめたものである。

大都市交通センサスは、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道・バス等の大量輸送機関を対象に、定期券利用者に対するアンケート調査や普通券の使用状況等についての調査を実施することにより、その利用実態を包括的かつ詳細に把握することを目的として、昭和３５年以来５年ごとに、国土交通省において行っているものである。第９回の調査は、平成１２年１０月～１１月に実施し、平成１３年度にその集計結果をまとめた。

平成１４年度調査においては、平成１３年度の集計結果を基に、通勤・通学所要時間の変化やバス・路面電車の利用状況、公共交通利用者の意識、鉄道路線間の乗り換え状況、国勢調査やパーソントリップ調査および道路交通センサスなどの他の統計調査との比較など詳細な分析を行った。特に、「混雑状況の分析」では、今回はじめて大都市圏における主要路線の混雑状況について、全時間帯全駅間の分析を試みた。

今回の分析結果が、三大都市圏における今後の交通計画の策定や利用者に対するサービス改善施策の立案等に際し、国や地方公共団体、交通事業者はもとより、交通に関心のある全ての方々に幅広く活用されることを期待する。

最後に、本調査の実施にあたって、交通事業者、大都市交通センサス調査検討委員会、首都圏、中京圏、近畿圏専門委員会ならびに技術検討ワーキンググループの委員各位および（財）運輸政策研究機構等の関係者の多大なご協力、ご助言に対し、ここに改めて深く感謝の意を表す次第である。

平成１５年３月

国土交通省総合政策局交通計画課長

大 竹 重 幸